

向島二の丸小・向島中跡地 地元利用検討状況

1. ワーキングの開催報告

向島二の丸小・向島中跡地 地元利用検討合同ワーキング		担当取組項目：16～19
<p>【平成 30 年度取組目標】</p> <p>○平成 28 年度におけるビジョンの検討時からこれまでの意見を踏まえつつ、各WGと連携しながら住民意見を集約し、推進会議に適宜報告する中で来年 4 月以降における地元主体での暫定利用方法と管理体制案をとりまとめる。</p> <p>(1) 活用案（たたき台）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの意見やWGでの議論を整理し、合同WGにおける議論を踏まえて活用案を検討する。 ・子ども若者の居場所・活動拠点、災害時における避難所、多世代・多文化の住民等による交流拠点といった意見や声(MJ が手狭という声や中国帰国者の交流拠点が必要であるといった声)をはじめ、(2) に挙げる各ワーキングが行うニーズ調査と並行して検討を行う。 <p>(2) ニーズ調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用案の検討と並行して必要な調査等を行い、地元ニーズを確認する。但し、ニーズ調査の必要性は基本的に各WGに委ねることにし、議論の結果を合同WGに適宜報告する。 <p>(3) 施設規模、機能の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用案及びニーズ調査に基づき、必要な施設の規模や機能を検討する。 <p>(4) 管理・運営のルール作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用目的、利用時間、費用負担、鍵の管理、予約方法、会計管理などを検討する。 <p>(5) 管理・運営体制の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暫定活用準備委員会（仮称）を立ち上げに向けて、管理・運営の受け皿組織の構築を目指す。 		
主な構成メンバー (敬称略)	進捗管理	京都市都市総務課、アルパック
	地域住民	増田, 佐々木, 福間 (1 街区), 山崎 (2 街区), 神門, 長谷川, 児玉, 山口, 橋爪, 藤井, 板原, 山岸 (3 街区), 福井 (3 街区 二の丸北各種団体連絡協議会), 角野 (4 街区町内会長), 日高(幸), 矢吹 (5 街区), 田嶋 (向島藤ノ木学区社協), 日高 (二の丸北学区社協), 小山 (6 街区), 松本 (6 街区 社会福祉協議会), 村岡 (中国帰国者 10 街区), 遠山, 平山 (夕陽紅の会), (橋本 (10 街区 10 街区代理 向島藤ノ木学区赤十字支部長), 木村, 藤村 (11 街区), 珍田 (向島藤ノ木学区自主防災会), 奥田 (向島学区), 上代 (向島学区 向島自主防災会長), 黒多 (にじいろプロジェクト)
	事業者	平田, 佐藤, 井桁 (愛隣館), 桐澤 (伏見区社協), 水野 (伏見青少年活動センター), 河合 (インターナショナル デモクラティックスクール まめの木), 森下 (中部産婦人科医院), 田中 (中部はすの実ひろば)

	その他	杉本, 小林, 三林, 潘 (以上, 京都文教大学), 村重 (伏見区役所), 澤本 (京都市向島地域包括支援センター), 美留町 (向島ニュータウン健康福祉のまちづくり懇談会)
今年度取り組むプログラム・取組	16 17 18 19	多文化・多世代交流の機会づくり 留学生・中国帰国者等と子どもたちの文化交流促進 街区・学区を越えて誰もが集える多文化・多世代のまちづくりを進めるための拠点の整備の検討 多文化・多世代のまちづくりを進めるための拠点の運営主体となる住民組織, NPO等設立の検討
平成30年度 主な活動の報告	第2回～ 第6回 WG会議	合同WGのこれまでの議論 (6ページ参照) ・ 前回の運営会議以降, 計4回ワーキングを開催。 ・ 第3回までは主に利用希望活動の把握を行った。その後, 利用範囲や主に利用する部屋, 必要な備品等の確認など, 施設の利用の仕方の検討を進めながら, 利用のルールづくりや, 管理・運営の方法について, 複数回に渡って検討を進めてきた。 ・ 次回以降, 管理運営体制の検討を行う予定であり, その検討結果を利用のルール作りに反映する予定。 ・ 第3回のWGでは中学校を見学し, 施設の状況を確認した。 ・ 第4回のWGでは, あしなが育英会の職員がWGに参加し, 小学校跡地に関する提案について説明を行った。

第2回ワーキング 平成30年8月25日(土) 参加者: 32名

○あしなが育英会による小学校跡地利用の提案に関する説明

- ・京都市より, あしなが育英会による小学校跡地利用の提案内容について説明を行った。

○学校跡地の利用希望の確認

- ・各ワーキング等から提出のあった学校跡地の利用を希望する活動について紹介し, 利用を希望する団体等から補足説明を行った。

第3回ワーキング 平成30年9月15日(土) 参加者: 26名

○中学校施設の確認

- ・向島中学校の施設の広さや設備等を確認するため, 見学を行った。

○地元意見を踏まえた学校跡地の地元利用に関する方針の検討

- ・第2回ワーキング以降で出た学校跡地の利用希望の確認や, 学校跡地の利用範囲, 必要な備品等について議論した。



第4回ワーキング 平成30年9月29日(土) 参加者: 32名

○あしなが育英会からの小学校跡地利用の提案に関する説明

- ・あしなが育英会から、あしなが育英会の活動及び小学校跡地利用の提案内容について説明し、意見交換を行った。



○地元意見を踏まえた学校跡地の地元利用に関する方針の検討

- ・地元利用の学校跡地の利用範囲や、利用者の範囲、今後検討すべき運営方法等について議論した。

第5回ワーキング 平成30年10月20日(土) 参加者: 31名

○地元意見を踏まえた学校跡地の地元利用に関する方針の検討

- ・跡地のバリアフリーや利用に関する基本的な考え方について確認した。
- ・また、跡地利用のルールや、鍵の管理等の必要性等について議論した。

第6回ワーキング 平成30年11月10日(土) 参加者: 28名

○地元利用の利用範囲と必要な備品の確認

- ・地元利用の学校跡地の利用範囲と各活動に必要な備品について確認を行った。また、交流拠点となるスペースの必要性について議論した。

○地元意見を踏まえた学校跡地の地元利用に関する方針の検討

- ・施設の利用ルールや利用料金の考え方について、前回に引き続き議論した。また、利用予約や利用料の受け取り、その役割を担う主体についても議論した。

2. 第6回WGでの主な議論

(1) 地元利用の利用範囲と必要な備品の確認

- ・地元利用を考える範囲と活動に必要な備品について検討した。
- ・必要な備品については、今後、跡地に残しておくことが可能かを市内部で確認を行う予定。

○主な意見・質問

- ・交流室でも音楽の利用や調理を行うため、それらに必要な備品が残るとよい。
- ・倉庫用のスペースを整理できるようにロッカーを残してもらえるとよい。

(2) 地元意見を踏まえた学校跡地の地元利用に関する方針の検討

- ・利用のルールや管理運営の方針について検討した。

○主な意見・質問

【利用方法】

- 申請者以外の参加者が向島5学区以外の方となっても問題ないか。
⇒代表者が向島5学区に居住あるいは通勤通学していれば問題ないと考えているため、申請にその旨を記載してもらえばよい。

【利用費用】

- エアコン使用の有無によって費用が変わってしまうと、費用が高い時期の利用が減ってしまう可能性があるため、年間を通じて活動しやすい工夫が必要ではないか。
- 住民の負担が多いように思うが、あえて跡地を利用するメリットは何だと考えているか。
⇒跡地利用は個々の団体の活動について考えるのではなく、まち全体のメリットと捉えて欲しい。事務局が提案しているものはあくまでも案であり、住民の皆さんで使い方のルールを検討していくとよい。
- 跡地に子どもたちの居場所をつくりたいと考えているが、子どもたちからお金を取ることは難しい。そこで、子どもたちの居場所確保のための費用負担について、皆さんに協力いただき、運営する方法を考えたい。
- 受益者負担は賛成であるが、受益者の範囲を大きく捉えるべきだと感じる。楽しく利用できるように考えていかないと、まちづくりを考えていたはずなのに議論がどんどん小さくなってしまう。

【鍵の管理や受付等】

- 鍵の受け渡しのできる人が常駐できるか、ということが大事である。様々な管理方法が考えられるが、できる体制によって、鍵の受け渡し方法を考えていくとよい。
- 鍵を受け渡しと同時に、使用料をもらって、領収書の発行手続き等も必要であり事務局の役割は大きい。
⇒使用料は、当日払いが最も望ましいが、特定の曜日を受付日とし、その日に利用者に来てもらって前払いしてもらおうことも考えられる。また、管理人は一人である必要はなく、日替わりでもよいと考えている。
- 多くの方が利用する場となるため、どの団体が利用するのか、スケジュールを一つの所で管理する必要がある。また、予定をしっかりと管理できる人で、数人の体制であること、情報を共有してお互いに状況が見られる状況にすることが求められる。
- 管理についても愛隣館に頼るばかりでなく、後々のことを考え、自分たちで管理できるよう

にすることが大事。

- 近年のような酷暑が続くと、室内でも熱中症で倒れるようなことがある。跡地の一部を避難場所として提供できるシステムができないか。

⇒今までの議論では、団体による単なる貸館機能であって交流機能が不足している気がしていた。事務局の部屋をつくり、その空いているスペースに机をいくつか置いておくことで、ふらっと立ち寄った方が事務局の方と話を出来るようなことがあっても良いのかと思う。そういったことから自然と交流が生まれていくと良いと思うし、避難場所という考え方にも沿うのではないか。

合同ワーキング これまでの議論と今後の予定

	目的共有	利用活動	施設利用	利用のルールと 管理運営方法	その他
第1回 (6/8)	目的共有				
第2回 (8/25)		利用希望活動 の把握			
第3回 (9/15)					中学校の見学
第4回 (9/29)			利用範囲や必要 な備品等の確認		あしなが育英会から 小学校跡地への提案 について説明
第5回 (10/20)				利用の ルール づくり	管理・ 運営の 内容
第6回 (11/10)					
第7回 (12/15)					管理・ 運営体制の 検討
第8回 (1/19)					

前回の推進会議以降の検討範囲